新たな研究開発法人制度創設に関する有識者懇談会（第3回）配付資料

公的研究開発機関の特性に即した制度設計へ

1. 多様性の考慮を
2. 柔軟性のある運営を可能に
3. 研究開発業務に即した評価へ
4. 人材が確保できる制度へ
5. 世界に誇る公的研究開発機関群へ

大垣眞一郎
(公財）水道技術研究センター　理事長
(独）国立環境研究所　前理事長

1

1. 多様性の考慮を

研究開発法人の特性として、長期性、不確実性、予見不可能性、専門性などに加えて、多様性への考慮が必要。

2つの多様性：
- ・研究開発機関間の多様性
- ・個別研究開発機関内での業務の多様性

（1）研究開発機関間の多様性

すべての独立行政法人の「最広義人件費の内訳」（次ページ）の例のように、機関により職員構成は大きく異なる。規模と業務の質による多様性。

2

「最広義人件費の内訳」における非常勤役職員等給与の構成比

（総務省、独立行政法人評価年報（平成22年度版）から作成）

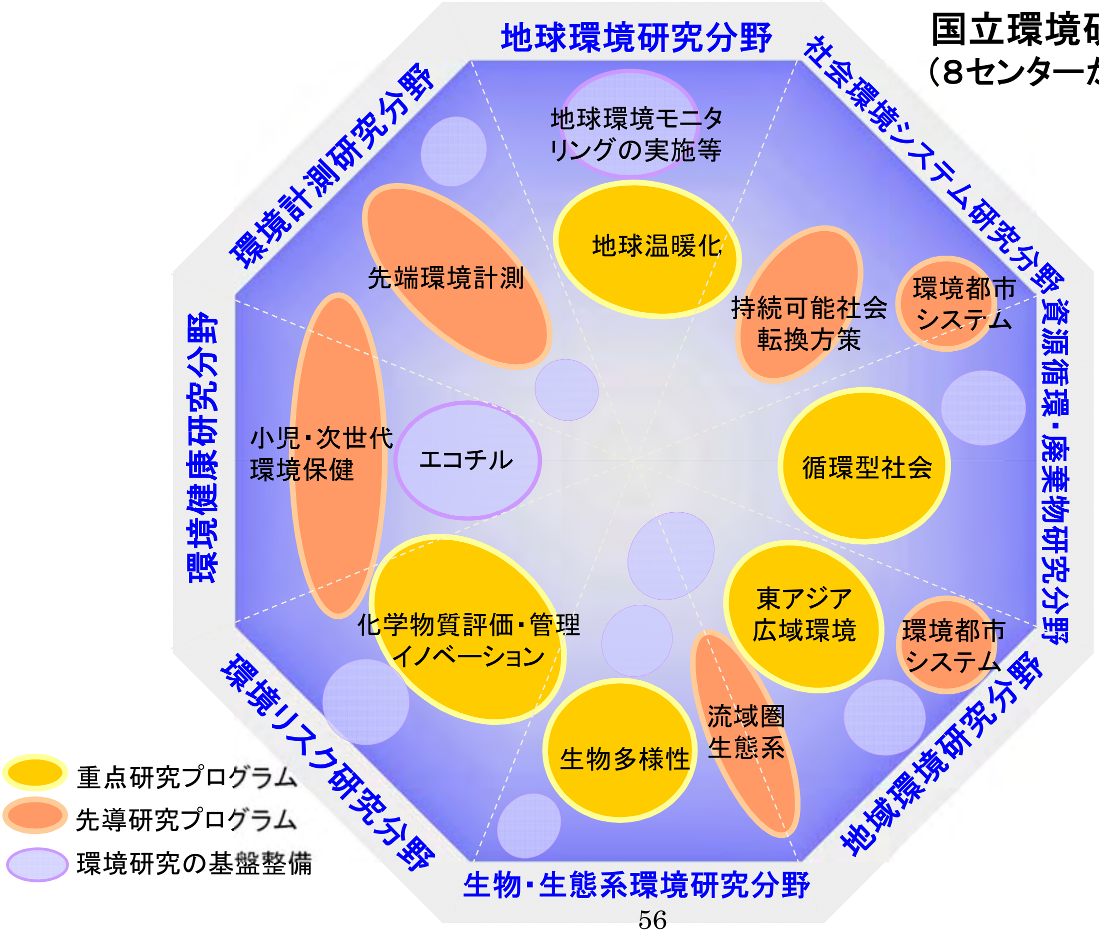
		（常勤職員数）
1. 経済産業研究所	48.2 ％	
2. 情報通信研究機構	44.7	約400名
3. 国立環境研究所	41.2	約250名＋約600名非常勤
4. 医薬基盤研究所	40.6	約80名
・		
・		
産業技術総合研究所	21.6	約3000名
・		
物質・材料研究機構	21.5	約900名
・		
理化学研究所	14.8	約3400名
・		
・		
42法人	＜10 ％	

全108独立行政法人

3

（2）個別研究開発機関内での業務の多様性

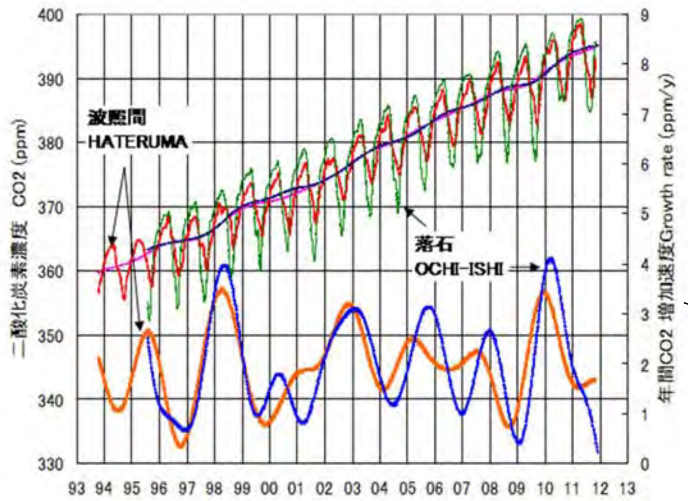
国立環境研究所の体制
（8センターが8分野を担う）

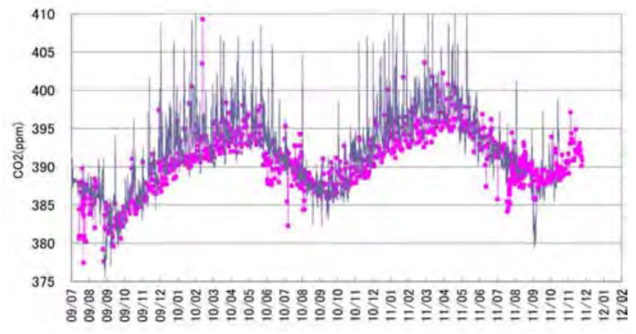


4

長期観測・国際貢献　例：温暖化ガス観測・解析

波照間島・落石岬地上モニタリングステーション





Ochi-ishi

Hateruma

Mt. Fuji

5

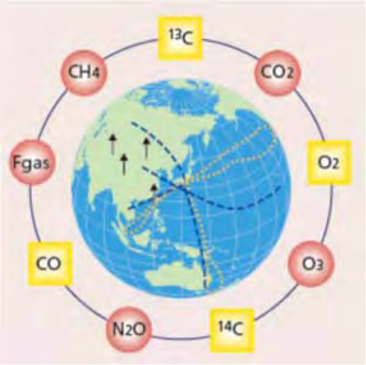
国際貢献・国際標準

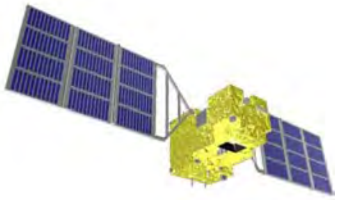
国立環境研究所における温暖化ガスGHG観測網

Commercial Ocean Liner
（Southern Cross）

Commercial Air Liner（JAL）

Pasoh
(CO_2 Flux)





GOSAT (IBUKI)
世界で唯一の温暖化ガス観測衛星

Monitoring Network over Ocean, Land and Atmosphere

6

国際約束

生物・生態系・生物多様性関係

トキ

・生物多様性の保全（絶滅，外来生物…）
・地球環境問題（熱帯林，砂漠化，温暖化…）
・生態系の機能の保全
・・・・・・

シャジクモ

渡良瀬遊水地

屋久島

ユスリカ

（竹中2010）7

基礎研究（真理に依拠すること）

環境リスク研究／化学物質評価・管理イノベーション研究関係

・化学物質曝露に関する複合的要因の総合解析による曝露評価

・感受性要因に注目した化学物質の健康影響評価

・環境中におけるナノ粒子等の体内動態と健康影響評価

・生物多様性と生態系機能の視点に基づく環境影響評価手法の開発、など

流水式曝露試験装置

メダカへの化学物質暴露試験

環境ナノ粒子吸入曝露装置

マウスへの環境ナノ粒子吸入実験

排水の水生生物(ニセネコゼミジンコとゼブラフィッシュの卵)を用いた生態毒性試験法の開発

8